

令和元年度 大阪市英語力調査（「英検 IBA」）の結果の概要と今後の取組について 大阪市教育委員会

■ 調査内容

学年	英検級レベル	テスト内容		満点 スコア
		筆記問題	リスニング問題	
3年	英検準2級～4級レベル	35題	30題	1100点

■ 調査結果(3年生) 【「語い・熟語・文法」「読解」「リスニング」の値は大阪市の分野別平均正答率(%)】

	平均スコア(点/1100点)	語い・熟語・文法	読 解	リスニング	CEFR A1 レベル以上の割合(%)
R1	760.1 点	61.5%	55.0%	54.6%	54.0%
H30	752.4 点	62.6%	52.2%	53.2%	52.8%

■ 結果の概要と今後の取組について

学年	結果の概要と今後の取組について
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・ CERF A1 レベル以上の割合は 54.0%であり、大阪市教育振興基本計画（平成 29 年 3 月改訂：平成 29（2017）年度～令和 2（2020）年度）に示す目標とともに、国の第 3 期教育振興基本計画（平成 30（2018）年度～令和 2（2020）年度）に示す目標「中学校卒業段階：CEFR A1 レベル*相当以上を達成した割合 50%」を達成するとともに、昨年度の結果を 1.2%上回った。 ・ 「語い・熟語・文法」における平均正答率は、昨年度から 1.1%下がったものの 60%以上の高い正答率を達成している。 ・ 「読解」における平均正答率は、55.0%であり、昨年度を 2.8%上回った。これは、英語科教員の指導力向上とともに、継続的にまとまった量の英文を読む取組の増加が要因である。 ・ 「リスニング」においても昨年度より 1.4%上回り、C-NET の有効な活用や教員の授業内における英語使用量が増えたことで、聴解力の向上がうかがえる。 ・ 今後は、「読むこと」と「聞くこと」に関する英語力調査に加え、「話すこと」、「書くこと」の技能も測定し、4 技能バランスの取れた指導を進めていく必要がある。 <p>* CEFR（Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment：外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠。A1 は英検に換算すると 3 級程度。）</p>